

<第2回> フォーラムレポート 対話フォーラムあいち

こどものいのちの安全と未来をまもる

テーマ「生きる力を育む教育を子どもたちへ」
～学生と考える「いのちの安全教育」と「キャリア教育」～

開催日：2026年7月29日（水）

会場：東海国立大学機構 Common Nexus (ComoNe) LOAM HALL



主催：いのち・からだ・こころネットあいち（IKOKO あいち）



協力：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

SRHRfor JAPAN

報告日：2026年8月25日

はじめに

本報告書は、いのち・からだ・こころネットあいち（IKOKO あいち）が、2026 年 7 月 29 日に名古屋市にて開催した「こどものいのちの安全と未来をまもる 対話フォーラムあいち（第 2 回）」の記録として、当日の内容や対話から生まれた気づき、今後に向けた課題と可能性をまとめたものです。

第 2 回フォーラムのテーマは「生きる力を育む教育を子どもたちへ」。第 1 回で扱ったデジタル社会のリスクから子どもたちを「守る」視点から一歩進み、子どもたち自身の「生きる力」をどう「育てる」かを、いのちの安全教育とキャリア教育の 2 つの軸から考える 1 日となりました。

夏休み中にもかかわらず、小学生から大学院生まで約 30 名の子ども・若者が自らの意思で会場に足を運び、対話の中心に立ってくれました。大人が正解を教えるのではなく、子ども・若者が問いを立て、大人がそれを聴き、共に考える。第 1 回で芽生えたこの形が、第 2 回でより確かなものになったと感じています。

本フォーラムは、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン様のご支援を受けて開催いたしました。ご登壇・ご協力いただいた皆さま、ご参加いただいた皆さま、準備段階から力を寄せてくださった関係者の皆さまに、心より御礼申し上げます。

この報告書が、当日ご参加くださった皆さまの振り返りとなり、これからこの取り組みに関心を寄せてくださる皆さまにとって、IKOKO あいちの願いと歩みを知っていただく入口となれば幸いです。



エグゼクティブサマリー

開催結果ハイライト

会場参加	うち子ども・若者	キャリア教育のイメージ獲得	学生の理解深化
約 100 名	約 30 名 (小学生～大学院生)	25% → 54% (事前→事後で倍増)	94% (理解が深まった)

主な成果

- ・ 小学生から大学院生まで約 30 名の子ども・若者が参加し「聞く側」ではなく対話の中心に立ちました。大学生ファシリテーターが自らの言葉で「生命（いのち）の安全教育」の対話を進行。
- ・ 参加者の「キャリア教育」のイメージが、事前の「職業選び」中心から、事後には「自分らしい生き方」「自分を知ること」「人との関係」へと大きく転換しました（「人との関係」11%→39%
- ・ 学生事後アンケートでは 94%が「理解が深まった」89%が「今後も学びたい」と回答。
- ・ 全体参加型企画「今後 経験してみたいこと」には 10 代から 60 代まで 62 件の投稿が集まり、世代を越えた対話がそれぞれの次の一步を言語化する場となりました。
- ・ 文部科学省担当専門官、国際 NGO、弁護士（こども性暴力防止法・日本版 DBS 解説）が登壇し、2026 年 12 月の法施行を見据えた制度と地域実践をつなぐ議論の土台ができました。

1. 開催概要

プログラム名	こどものいのちの安全と未来をまもる 対話フォーラムあいち（第 2 回）
テーマ	「生きる力を育む教育を子どもたちへ」～学生と考える「いのちの安全教育」と「キャリア教育」～
日時	2026 年 7 月 29 日（水）10:30～16:30（懇親会 18:00～19:30）
会場	東海国立大学機構 Common Nexus（ComoNe）LOAM HALL（名古屋市千種区不老町）
実施形式	現地開催（全体の記録映像によるアーカイブ配信を準備中。グループ対話は録画せず、安心して話せる場を重視）
参加費	無料（懇親会のみ会費制）
参加者数	会場参加 約 100 名（うち子ども・若者 約 30 名〔小学生～大学院生〕） 懇親会 約 30 名
昼食提供	会場参加者向けに無料ランチを提供（TOMOCAFF'E・86 食）
アンケート	回答 59 件（一般 41 件・学生 18 件）ほか事前アンケート 48 件（一般 36 件・学生 12 件）
主催	いのち・からだ・こころネットあいち（IKOKO あいち）
事務局	femUniti 株式会社
協力	公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
後援	愛知県・名古屋市・愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会

2. 開催目的・背景

2-1. 開催目的

第2回フォーラムは、第1回で共有された「子どもたちをリスクから守る」という視点から一歩進み、子どもや若者が自分と他者を大切にしながら、自らの人生を選び取っていく「生きる力」をどう育むかを、地域全体で考えることを目的として開催しました。

特に重視したのは、いのちの安全教育とキャリア教育を切り離さずに扱うことです。自分の気持ちに気づくこと、からだところを大切にすること、他者の気持ちを理解すること、人間関係を築くこと、自分で考え選択すること、困ったときに頼る力。これらはすべて「人との関係の中で、自分らしい人生をつくっていくこと」につながっており、その土台には、いのちの安全教育・包括的性教育・人権教育があるという認識のもと、プログラムを設計しました。

2-2. 開催背景

2026年12月25日には、こども性暴力防止法（日本版DBS）が施行されます。この法律を「紙の上の制度」で終わらせず、地域の実践として根づかせるためには、制度の言葉を子ども・若者自身の言葉と接続し、医療・教育・行政・地域・企業・保護者が立場を越えて対話し続ける場が欠かせません。

また、事前アンケートでは、文部科学省が推進する「生命（いのち）の安全教育」を「知らない」と答えた子ども・若者が75%にのぼり、国の施策と当事者の認知の間に大きなギャップがあることが明らかになりました。まず子ども・若者自身の声を聴くことから始める必要性を、データからも確認してのぞんだ開催でした。

2-3. 第1回からの継続と発展

第1回（2026年4月25日）では、学生パネルディスカッションを通じて「子どもの声を起点とする対話」という形が生まれました。第2回はこれを発展させ、大学生自身がファシリテーターとして対話を設計・進行し、午後は大人と子どもが同じ丸テーブルを囲む混合グループでの対話を実施しました。子ども・若者の参画の度合いを一段深めたことが、第2回の構成上の大きな特徴です。

3. プログラム

時間	内容	登壇者・テーマ
10:30 - 10:40	開会あいさつ	IKOKO あいち代表 伊藤加奈子／副代表 鈴木世津
10:40 - 11:00	来賓あいさつ・ミニ講義	文部科学省「生命（いのち）の安全教育」担当専門官 岩田育美氏 プラン・インターナショナル・ジャパン 長島美紀氏 TMI 総合法律事務所 益原大亮氏（こども性暴力防止法・日本版 DBS）
11:00 - 12:40	午前の部 学生対話セッション	大学生ファシリテーター 戸崎翔太氏ほか藤田医科大学の皆さん 「生命（いのち）の安全教育」をめぐる子ども・若者の対話
12:40 - 13:40	ランチ交流会	TOMOCAFF'E 早川友子氏（添加物ゼロ・発酵調味料・地産地消の軽食）
13:40 - 13:50	午後の部 導入	こまきこども未来館 前田守彦氏・古谷萌子氏 「キャリア教育を、役割と関係性から考える」
13:50 - 14:50	SEL ワークショップ	伊藤遥氏「自分の気持ちに気づき、他者の声を聴く土台をつくる」
14:50 - 15:20	対話 1	「大人も道半ば。失敗、転機、役割の変化を語る」
15:30 - 16:20	対話 2	「自分の役割と関係性が見える化する」「今後 経験してみたいことを言葉にする」
16:20 - 16:30	閉会	IKOKO あいち代表 伊藤加奈子（第 3 回のご案内）
18:00 - 19:30	懇親会	世代・分野を越えたネットワーキング（ケータリング：シェジロー）



4. 当日の様子

4-1. 開会・来賓あいさつ

開会にあたり、IKOKO あいち代表の伊藤加奈子と副代表の鈴木世津よりご挨拶を申し上げました。夏休み中の朝にもかかわらず、たくさん子ども・若者が会場に集まってくれたことへの感謝とともに、「今日は正解を持ち帰る場ではなく、対話から生まれるものを持ち寄る場にしたい」との思いをお伝えしました。

続いて、文部科学省「生命（いのち）の安全教育」担当専門官の岩田育美氏より、同教育の全国の実施状況についてご報告いただきました。愛知県における実施が全国的に見ても低い水準にあることが共有され、本フォーラムの取り組みの意義を裏づけるものとなりました。プラン・インターナショナル・ジャパンの長島美紀氏からは、子どもの権利の視点からのメッセージをいただきました。

さらに、TMI 総合法律事務所の益原大亮弁護士より、2026 年 12 月 25 日に施行される「こども性暴力防止法（日本版 DBS）」について解説いただきました。制度の概要と意義、そして地域や現場が果たすべき役割について、参加者全体で理解を深める貴重な機会となりました。



4-2. 午前の部：学生対話セッション「生命（いのち）の安全教育」

午前の部は、藤田医科大学の戸崎翔太氏をはじめとする大学生ファシリテーターが進行しました。アイスブレイクで安心・安全な場をつくったうえで、小学生から大学生までが丸テーブルを囲み、「いのちの安全教育」をめぐる対話が始まりました。専門家や教育・医療関係者など、普段は教える側に立つ大人たちが見守る中で、子ども・若者たちが核心に迫る問いを自分たちで立て、話し合ったこと自体に、大きな価値がありました。

学生たちの対話は、安全教育の内容そのものにとどまらず、人間関係、親との対話、先生との対話、人と人がどう向き合うかという、より根本的なテーマへと深まっていきました。子ども・若者は大人が思っている以上に多くのことを考えている。その確信を、会場全体で共有する時間となりました。



4-3. ランチ交流会

昼食には、TOMOCAFF'E の早川友子氏より、添加物ゼロ・発酵調味料・地産地消にこだわった、こことからだに優しいお弁当 86 食をご提供いただきました。食を通じて自分のからだを大切にすることを実感できるランチタイムとなり、テーブルのあちこちで世代を越えた交流が生まれました。



4-4. 午後の部：SEL ワークショップとキャリアの対話

午後は、こまきこども未来館の前田守彦氏・古谷萌子氏によるファシリテーションのもと、「キャリア教育を、役割と関係性から考える」導入からスタートしました。続く伊藤遥氏による SEL（社会性と情動の学習）ワークショップ「自分の気持ちに気づき、他者の声を聴く土台をつくる」では、参加者一人ひとりが自分の感情と向き合い、対話の土台を整えました。





その後の対話「大人も道半ば。失敗、転機、役割の変化を語る」では、大人が自らの失敗や転機を率直に語り、子ども・若者が問いを重ねました。大人が「教える側」ではなく「語り、聴かれる側」に立ったこの時間は、本フォーラムを象徴するものとなりました。

「大人も道半ば」 — 参加者の心に残った言葉より

4-5. 「今後 経験してみたいこと」62 件の投稿

対話の締めくくりには、参加者全員が「今後 経験してみたいこと」を言葉にして投稿しました。集まった投稿は62件。10代から60代まで、すべての世代から寄せられました。高校生の「いろんな人の話を聞く」、教員の「学校を、安心して迷えて、遠慮なく失敗できる環境にしたい」、医療職の「ユースクリニック（町の保健室）を作る」、行政職の「子どもの権利条約のワークショップをやってみよう」。個人の夢と社会への行動宣言が並び、世代を越

えた対話がそれぞれの次の一步を言語化する場として機能しました。



4-6. 閉会・懇親会

閉会にあたり、代表の伊藤加奈子より本日のまとめと、2027年2月6日開催予定の第3回フォーラムのご案内を申し上げました。閉会後の懇親会には約40名が参加し、シェジローさんのケータリングを囲みながら、分野を越えたつながりが夜まで続きました。同会場としたため、移動時間もなく、参加者がたっぷりとネットワークをする機会を提供することができました。



5. 参加者アンケート結果（ハイライト）

フォーラム前後に、子ども・若者向けと一般向けの2種類のアンケートを実施しました（事前48件・事後59件回答）。主要な結果は以下のとおりです。詳細な集計グラフは別添をご覧ください。

5-1. 子ども・若者の変化（事前12件・事後18件）

項目	結果
【事前】「生命（いのち）の安全教育」を知らない	75%（9/12名）
【事前】いのちの安全教育・包括的性教育は必要だと思う	92%（11/12名）
【事後】理解が深まった	94%（17/18名）
【事後】今後も学びたい	89%（16/18名）

学びたいテーマの上位には「SNSやAI・ネットの危険」「人権」「多様性・LGBTQ+」が並びました。子ども・若者が求めているのは断片的な性知識ではなく、「人生を生きるために必要なこと」の全体であることがうかがえます。

5-2. 「キャリア教育」のイメージの転換（一般・事前36件→事後41件）

「キャリア教育」と聞いて思い浮かぶもの	事前	事後
自分らしい生き方	67%	83% ↑
自分を知ること	47%	68% ↑
人との関係	11%	39% ↑
将来の仕事や職業を考えること	56%	32% ↓
進学・就職など次の進路を選ぶこと	28%	17% ↓

「はっきりとしたイメージがある」も25%から54%へ倍増しました。キャリア観が「職業選び」から「生き方と関係性」へと転換したことを示す、本フォーラムの成果を象徴する結果です。

5-3. 参加者の声（抜粋）

「人権教育が土台となって、性教育が上にあるのを初めて知った」 — 学生

「包括的性教育という概念を知り、単なる性の話だけでなく自分の生き方や幸せ、人間関係等につなげていけることを初めて知り勉強になりました」 — 学生

「大人だけで話し合いを完結するのではなく、多角的な視点で私たちの考えを直接受け止めて、生き

るために最も大切な教育をしてほしい。私たちは、ただの知識でなく、人生で活かせることを知りたい」 — 学生

「子どもたちは、ものすごく色々なことを考えていることを肌で実感しました。政策や制度の決定に、さらに子どもたちの声を反映してほしい」 — 大人参加者

「若者からの「求めたときだけ話を聞いてほしい」とのコメントが心に残った。いつでも安心して相談できると感じてもらえる大人でありたい」 — 行政関係者

また、親子で参加されたご家庭からは、フォーラムの夜にご家族で振り返りの対話が生まれ「話が尽きず夜更かしした」とのお便りをいただきました。「身近に善良な大人がたくさんいると実感できた」というお子さんの言葉は、私たちにとって何よりの励みです。

6. 成果

- ・ 子ども・若者が「対話の中心」に立ちました。大学生がファシリテーターとして場を設計・進行し、小学生から大学院生までが自分の言葉で語り、大人がそれを聴く構図が終日成立しました。
- ・ いのちの安全教育とキャリア教育が、根底でつながっていることを参加者全体で確認できました。自分と他者を大切にする学びの土台の上こそ、自分らしい生き方の選択があるという本フォーラムの仮説が、アンケートの定量的変化としても裏づけられました。
- ・ こども性暴力防止法（日本版 DBS）の施行を前に、制度の解説と子ども・若者の生の声と同じ場で共有され、法を地域の実践につなぐ対話の土台ができました。
- ・ フォーラムでの対話が家庭での対話へ連鎖するなど、場の外への波及が確認されました。

7. 課題・改善点

7-1. 「いのちの安全教育」と「包括的性教育」の言葉の接続

子ども・若者はプライベートゾーンや性暴力予防を学んだ経験があっても、それを「いのちの安全教育」として認識していないことが多いとわかりました。

【改善方針】制度上の言葉を子ども・若者の言葉に噛み砕く学びの機会を第3回までの間に設けます。

7-2. 学生ファシリテーターへの伴走

学生たちが当日の場に立つまでには、相当な準備と伴走が必要でした。

【改善方針】問いの設定・着地点の整理・学びの土台づくりを含む伴走プログラムを設計し、夏休み明けから学生との対話の機会を持ちます。

7-3. 会場の構図

参加者から「子どもたちが前方で話すのを大人が後方から見る構図が、人によっては苦手かもしれない。大人も同じグループ形式の席にしてはどうか」とのご意見をいただきました。

【改善方針】第3回は午前から各テーブルに多様な立場の参加者が混ざる空間設計を検討します。

7-4. プログラム時間

「長時間で集中の維持が難しい」「もう少し短く」とのご意見をいただいた一方、「学びが多く充実していた」との声も多数ありました。

【改善方針】休憩の取り方とセッションの長さを見直し、子どもの集中が続く時間設計を検討します。

8. 次回・今後の展開

8-1. 第3回フォーラム

開催予定日	2027年2月6日（土）
テーマ	分野横断で考える「子どもたちのセーフガーディング」
方向性	セーフガーディングを大人だけの制度論にせず、午前は子ども・若者の声を中心に据え、午後は医療・教育・行政・地域・企業・NPO・保護者・学生の各セクターが子ども・若者と同じテーブルで対話する構成を予定しています。全体を貫く問いは「変化の激しい現代を生きる子どもたちの安全をつくっていくために、私たちには一体何が必要なのか」です。

8-2. 第2回と第3回をつなぐ取り組み

- ・12月に、大学生による「生理の貧困」をテーマとしたスピンオフ企画を予定しています。
- ・学校との連携を進めます。市立高校への訪問や、スタッフの養護教諭の勤務校における包括的性教育の実践など、フォーラムの学びを現場につなぐ動きが始まっています。
- ・地域の児童館では、中高生が安心できる関係性の中で性の健康について自然に学べる「ユースクリニック」的な実践が生まれており、今後の企画への展開を検討しています。

9. 謝辞

第2回「こどものいのちの安全と未来をまもる 対話フォーラムあいち」の開催にあたり、温かいご支援とご協力をお寄せくださったすべての皆さまに、心より御礼申し上げます。

本事業の意義をご理解いただき、開催を支えてくださいました公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン様には、企画段階から当日まで、貴重なご助言と励ましをいただきました。深く感謝申し上げます。

ご多忙の中ご登壇くださいました文部科学省・岩田育美様、プラン・インターナショナル・ジャパン・長島美紀様、TMI 総合法律事務所・益原大亮様、藤田医科大学・戸崎翔太様はじめ大学生ファシリテーターの皆さま、こまきこども未来館・前田守彦様・古谷萌子様、SEL ワークショップ講師・伊藤遥様に、心より感謝申し上げます。

こころとからだに優しいランチをご提供くださいました TOMOCAFF'E・早川友子様、懇親会のケータリングをご担当くださいましたシェジロー様、会場をご提供くださいました東海国立大学機構 ComoNe 様にも、厚く御礼申し上げます。

そして、夏休みに自らの意思で足を運び、勇気を持って自分の言葉で語ってくれた小学生・中学生・高校生・大学生の皆さん、運営にお力添えくださったスタッフ・ボランティアの皆さま、当日ご参加くださったすべての皆さまに、改めて深く感謝申し上げます。

第1回・第2回で育まれた対話のつながりを、第3回のセーフガーディングの対話へと発展させながら、愛知・名古屋から、子どもたちのいのちと未来を地域全体で支える歩みを進めてまいります。

いのち・からだ・こころネットあいち（IKOKO あいち）

代表 伊藤加奈子(ココカラウィメンズクリニック院長)

副代表・事務局 鈴木世津（femUniti 株式会社）